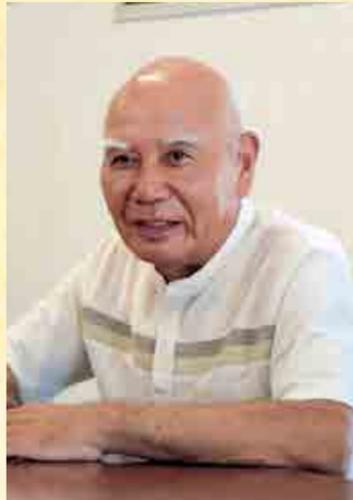




第3代会長(現) 井上 慎司さん(上島)



第2代会長 小玉 光一さん(上島)



初代会長 菊川 敬人さん(金井島)

つながる想い

連を指導・育成し、開成町阿波おどりの草創期を支えてきた「開成阿波おどり推進会」の想いを引き継ぎ、平成12年に「開成阿波おどり連協会」が誕生しました。これまで連協会会長として、開成町阿波おどりをつないできた歴代会長さんに30年の想い、これからの開成町阿波おどりについて語っていただきました。

井上 開成町阿波おどりは、商工振興を目的に始まったと聞いています。
菊川 町おこしの一環として阿波おどりを取り入れ、各自治会で連を作り、参加者を募集しました。私は金井島連に参加したのが、阿波おどりを始めたきっかけです。
小玉 最初は、指導者もいませんでした。阿波おどりの本場、徳島へ勉強に行き、自分たちの踊りとの違いに驚いたことを覚えています。

連協会の発足

井上 開成阿波おどり連協会(以下「連協会」)が発足して18年目を迎えましたね。
菊川 連協会ができたことは、開成町阿波おどりにとって大きなポイントだと思います。町外への遠征なども含めて、町民が主体的に取り組むきっかけになりました。
井上 連協会がもっと主体性を持って、自分たちの手で開成町阿波おどりを運営してい

地域「コミュニティ」の場

く必要があると考えています。そうすることで、「自分たちのまつり」という意識が強くなってくると思います。
小玉 自治会ごとに連を作ったことが、30年間続けてこられたポイントだと思います。
井上 自治会連は、他の地域の阿波おどりにはない要素ですね。地域コミュニティが薄れてきて、人と人の繋がりが希薄になってきている時代の中で、自治会連が地域の様々な世代の交流につながっています。
菊川 自治会連での活動を通して、地域の連帯感も育まれます。
小玉 子どもたちの登下校の見守り活動をしていると「提灯の人だ」と声をかけられることがあります。阿波おどりを通して、子どもの頃から地域でのつながりを深めています。
井上 子どもたちには、地域への関心を深めてもらい、部

次の世代へつなげていく



阿波おどりは、400年以上の歴史があります。しかし、その起源は、定かではなく、諸説あります。その一つ「築城起源説」は、徳島藩の藩祖・蜂須賀家政が徳島城築城を記念して、城下の人々に城内での無礼講を許した際に踊られたものを阿波おどりの始まりとする説です。他にも、「盆踊り起源説」や「風流踊り起源説」があります。

活動や塾などが忙しくなると阿波おどりから離れる時期があっても、またいつか戻ってきてくれるような場所にしていきたいと思っています。
井上 開成町は人口が増えていきます。町に転入された皆さんにも阿波おどりに参加してもらえませんか？と考える必要があります。
菊川 これからも町の人口は増えていきます。自治会連に参加してみようと思ってもらえるようにしていく必要がありますね。
井上 町に引越してきて、阿波おどりに参加している方も数多くいます。興味を持っていただける工夫と参加しやすさが大切ですね。
菊川 阿波おどりは、生で観てもらおうが一番。会場に足を運んでもらいたいですね。
井上 会場の雰囲気を感じてほしいですね。

特集 開成町阿波おどり

おどる。
つながる。
もりあがる。

開成町阿波おどり

昭和63年9月、開成町阿波おどりの前身である「かいせい秋祭り」が小雨の降る中、開催されました。
この秋祭りは、町商工振興会主催の「商工夏祭り」に代わるイベントとして企画されました。

